

## 「徐霞客遊記」の基礎的研究(二)

— 徐霞客遊記全行程(その2) 江右遊日記・楚遊日記 —

薄井俊二 埼玉大学教育学部国語教育講座

キーワード：徐霞客遊記、徐弘祖、江右遊日記、楚遊日記

### はじめに

本稿は、明末の徐霞客が著した遊記に対し、基礎的な研究をするものである。今回は「徐霞客遊記全行程」とし、巻二上の「江右遊日記」と巻二下の「楚遊日記」を対象とする<sup>(1)</sup>。

### 凡例

- ・「行程」で、徐霞客がたどった行程を、遊記をもとに日を追って同定する。遊記の表記とは異なるが、当該地であろうと推測される現代の地名を〔 〕で示す。
- ・現在中国では、正確な地形図は公開されていない。そこで、手元にある三種の地図帳とインターネット上の地図を用いる。元の資料名を、( )で略称で示す。
- ・全ての資料で同名の場合は( )での注記は省略する。
- ・「経由地」で、徐霞客が経由した府県を確認する。明代の府県名で示し、( )で現代(2014年)の地方行政組織名を記す。重複の場合は〈 〉で示し、現代の組織名は略した。
- ・「探訪先」で、山岳などの主な探訪対象を記す。( )で別称や別表記を示す。
- ・使用したテキストと地図類、その略称は次の通り。

#### ○底本

褚紹唐・呉王寿整理「徐霞客遊記」上海古籍出版社、1980年(底本)

#### ○訳注

朱恵栄等訳注『徐霞客遊記全訳』貴州人民出版社、1997年(朱全訳)

黄坤注訳「新訳徐霞客遊記」三民書局、2002年(黄新訳)

#### ○参照した徐霞客関連地図

丁文江撰『徐霞客遊記』付図、上海商務印書館、1928年(丁本付図)

褚紹唐主編『徐霞客旅行路線考察図集』中国地图出版社、1991年(路線図)

#### ○参照した現代地図

#### ☆江西省の部

江西省測繪局『江西省地図冊』中華地図学社、1990年(小図)

江西省地図集編纂委員会『江西省地図集』中国地图出版社、2008年(大図)

中国地图出版社『江西省地図冊』中国地图出版社、2010年(中図)

#### ☆湖南省の部

湖南省地図集編纂委員会『湖南省地図集』湖南地图出版社、2000年(大図)

中国地图出版社『湖南省地図冊』中国地图出版社、2001年(小図1)

湖南地図出版社『湖南省地図冊』湖南省地図出版社、2008年（小図2）

○ウェブ上の地図

百度地図（BD）

## 1. 「江右遊日記」の部

卷二上「江右遊日記」

：崇禎丙子9年（1636）10月17日～同丁丑10年（1637）1月10日、徐霞客51～52歳

### 1-1. 行程

10月

17日 陸行。輿轎。浙江省衢州府常山県を出発。

白石鋪〔白石鎮（大図・BD）〕などを経て、草萍公館〔草坪村（大図・BD）〕に至る。江右省  
広信府玉山県域に入り、古城鋪〔古城崗（大図・中図・BD）〕、東津橋（大図・BD）を経て、  
玉山県域に至る。

ここで舟を雇い、以後舟行。上饒県域に入る。沙溪を経て、広信府治の上饒県域に泊。

18日 県城北の靈山・北山寺行を計画していたが、できものができ断念。

舟行。鉛山県域に入り、旁羅〔傍羅〕を経て、河口鎮に泊。

19日 貴溪行き舟を雇う。舟行。叫巖（大図）のあたりで上陸し、叫巖探訪。再び乗船し、弋  
陽県域に入り、弋陽県域に泊。

静聞に荷物を持たせて舟で遣り、自身は亀峯の遊を期す。

20日 陸行。徒歩か？ 亀峯に至り、亀峯探訪（～22日）。

22日 亀峯を下り、排前〔新屋排前（大図・中図）〕、状元橋〔状元橋余家（大図・小図）〕を経て、県  
境の留口〔流口〕に至り、河を渡って、貴溪県側に泊。

23日 貴溪県域に至り、静聞と合流。県城南の景勝を探訪。貴溪県域に泊。

24日 車行。新田鋪〔新田（大図）、新田坂（BD）〕、聯桂鋪〔桂店部桂家？（BD）〕、馬鞍山（大図・  
BD）を経て、申命地（不詳）に泊。

25日 章源〔莊源（大図・BD）〕、桃源〔桃源熊祝（大図）、桃源熊家（BD）〕、連塘〔連塘馮家（BD）〕、  
鉄鑪坂〔天禄坂？、天禄村（大図・BD）〕を経て、撫州府安仁県域に入る。馬祖巖探訪、  
馬祖巖に泊。

26日 南下し、再び貴溪県域に入り、漁塘〔魚塘（大図・小図・BD）〕を経て、蔡坊渡〔古石蔡坊（大  
図）、蔡坊（小図）、古石蔡家（BD）〕に泊。

27日 龍虎山を探訪。蘭車渡〔蘭車劉家？〕を経て、上清街など探訪。西南へ、撫州府金溪県域  
に入り、孔坊（大図・中図・小図）〔坂上孔家（BD）〕に泊。

28日 西へ、葛坊（大図・小図・BD）、五里橋〔五里（大図・BD）〕、金溪県域を経て、大塘〔大塘楊家？  
（BD）〕に泊。

29日 青江源〔青江（大図・BD）〕、後車（大図・BD）を経て、建昌府南城県域に入る。大坪頭（大図・  
BD）、横坂鋪〔沉板？（大図・BD）〕、潭樹橋〔潭市橋？（小図）〕、梧桐隘〔湖東隘？（小図）、  
湖東（大図・BD）〕を経て、建昌府治の南城県域に泊。

11月

- 1日 (遊記なし)
- 2日 陸行。西の麻姑山へ。麻姑山探訪(～3日)。
- 3日 麻姑山を下る。(以下遊記欠。)おそらく南城県城に戻り泊。
- 4日 東へ従姑山へ。従姑山探訪。(以下遊記欠)  
 県城で、夏調御・丘士章という二人の人と会う。おそらく南城県城に戻り泊。
- 5日 夏・丘と別れ、東南へ。益王<sup>(2)</sup>の墓(大図)の南を進む。硝石鋪〔洪門鎮?〕に泊。
- 6日 覺海寺・鉄仙巖(不詳)を探訪。東南へ。韓公橋を経て、竺岫〔竺由(大図・小図・BD)〕に泊。
- 7日 緬灣〔免沅か?(大図・中図・BD)〕、黄源橋〔黄源(大図・BD)、黄沅(中図)〕を経て、新城県城に入る。連家灣〔連源(大図・BD)、連沅(中図)、蓮源(小図)〕、百順鋪(中図・小図)〔連盟(大)〕を経て、新城県城を通過して、石瓶崗(不詳)に泊。
- 8日 (遊記なし)
- 9日 大杉嶺(広義の武夷山)探訪(～10日)。  
 板鋪〔坂埠(大図・BD)〕、九坊を經由し、山中泊。
- 10日 大杉嶺を下り、官公坳、章村〔宏村?〕を経て、梅源(大図・小図・BD)に泊。
- 11日 西に進み、南豊県城に入る。坳上塢〔礫上(大図・小図・BD)〕、黄婆橋〔黄家陂?(大図・BD)〕を経て、南豊県城に入城。通過して、三江口(不詳)に泊。
- 12日 西に軍峯山に入り、探訪(～13日)。山中泊。軍峯山は、撫州府宜黄県にまたがる。
- 13日 (冒頭欠)軍峯山を撫州府宜黄県城へ下り、北へ。楓林に泊。
- 14日 北上し、再び建昌府南城県城に入り、南湾坳〔南源坳(大図・BD)〕、八角荘(大図・BD)、磁亀〔茲圭(大図)、磁圭(BD)〕、鉅源〔徐源?(大図・BD)〕を経て、新豊に泊。
- 15日 舟が雇えず、陸行。北に進み、南城県城に入り、泊。南城県城滞在(～18日)。
- 16日 夏調御の家で飲む。
- 17日 静聞を荷物とともに、宜黄へ先発させ、自分は夏の家滞り。
- 18日 陸行。再び西へ。麻姑山探訪(～19日)。  
 五老坳〔五郎坳(大図・中図・BD)〕、丹霞洞(中図・小図)〔丹下(大図・BD)〕、張村〔張坊(大図・BD)〕、石坪(大小図・BD)を経て、芙蓉庵〔芙蓉山〕に泊。ここが県境。
- 19日 麻姑山を撫州府宜黄県城へ下り、西へ。南坑(大小図・BD)、港口橋〔港口(大中図・BD)〕、上坪(大小図・BD)、杉木嶺(大図・BD)、君山、矮嶺〔台嶺?(大図・BD)〕、楊坊(大図・BD)、坑陰〔裳陰?(大図・BD)〕を経て、車上(大図・小図・BD)に泊。
- 20日 宜黄県城に入り、静聞と合流。北へ獅子巖・仙巖〔仙洞(大図)〕を探訪。宜黄県城へ引き返し、南へ蛭山探訪(～21日)。  
 譚綸<sup>(3)</sup>の墓(大図・中図・BD)を経て、石蛭寺へ、泊。
- 21日 蛭山を下り、北へ引き返し、宜黄県城の旅館に泊。
- 22日 西へ。元口〔源口(大図・小図・BD)〕、官荘前を経て、陳坊に至る。  
 顧僕に楽安県流坑に先行させ、自身は静聞と曹山(大図・中図・BD)、曹山寺へ。泊。
- 23日 曹山寺から陳坊に戻り、再び西へ。崇仁県城に入る。朱碧街〔朱溪?〕に泊。
- 24日 西南へ。楽安県城に入り、深坑(大図・中図・BD)、横崗(大図・中図・BD)、大坪墅〔大平〕を経て、華蓋峯〔大華山〕に入る。探訪。華蓋峯を下り、大陂〔帶陂(大図・小図・BD)〕に泊。
- 25日 曾田〔増田〕、流坑を経て、茶園(大図・BD)に泊。

26日 北の会仙峯に登り、探訪。茶園に戻り、泊。

(ここで自注。常山以来、舟運が通じないところはなかったが、金溪・樂安は郊外でないと通じない、と。)

27日 ここから舟行。烏江(恩江)を下り、吉安府永豊県域に入り、豊陂(大図・BD)に泊。

28日 烏江を下り、永豊県域に泊。

29日 吉水県域に入り、烏江〔烏江鎮〕を経て、下黄〔下王(大図・小図・BD)〕に泊。

30日 鳳凰橋などを経て、吉水県域に泊。

12月

1日 県城の張氏(震客が江陰の君山で祠を再建した人<sup>(4)</sup>の一家)を訪ねる。南の西園<sup>(5)</sup>に一族がいて聞き、そちらへ向かう。舟行。贛江を遡上。廬陵県域に入り、梅林渡〔梅林(大図・BD)〕に泊。

2日 舟行していると、無頼の徒が現れて船を止め、ゆすりをはたらく。梅林の保長を呼び、ようやく追い払う。再出発し、吉安府治の廬陵県城〔吉安市轄区〕の白鷺洲に泊。

廬陵県城滞在(～8日)

8日 陸行。川を渡り、梅林を経て、一旦川沿いに東北へ。大洲〔大洲上(大図)〕を経て、東へ。再び吉水県域に入り、天獄山〔天玉鎮(大図・中図・小図)、天玉山(BD)〕を経て、南山(不詳)麓に泊。

9日 東南へ、施坊〔施家辺?〕を経て、嵩華山西麓の虎浮〔古富(大図・小図・BD)〕に泊。

10日 嵩華山探訪(～12日)。

12日 虎浮を発ち南へ。鏡坊澎〔鏡頭?(大図・BD)〕、分水嶺、帶源〔(中図・小図・BD)、帶元(大図)〕、燕山(大図・小図・BD)を経て、水北(大図・小図・BD)に泊。

13日 川を南に渡り、夏朗(不詳)を経て、西園着。張氏を訪ね、泊。

滞在(～18日)。祭りと宴を繰り返す。

18日 西園を発ち、西へ。瀧頭(大図・小図・BD)、查埠〔作埠(大図・中図・BD)〕を経て、羅家埠〔富灘鎮?〕に泊。

19日 再び廬陵県域に入り、値夏を経て、張家渡で船に乗る。

舟行。小舟で遡上。永和で下船。張氏の一人に船で白鷺洲へ向かわせる。自身はもう一人の張氏・静聞と北岸に上陸し、青原山探訪。白鷺洲に、泊。

白鷺洲滞在、周辺探訪(～25日)。

22日 南の神岡山(大図・BD)探訪。

25日 出発準備。螺川駅に泊。

26日 舟行で出発。神岡山下、三江口〔永新江と安福江との合流地点。江口(大図)〕を経て、横江渡〔横江鎮〕に泊。

27日 一旦泰和県域に入るが、すぐに廬陵県域に戻り、永陽を経て、止陽渡〔指陽郷〕に泊。

28日 敖城を経て、永水県域に入り、県境の坪上〔坪洲?(中図・BD)〕に泊。

29日 還古〔石橋鎮?〕で上陸し、舟は永新へ先行させ、自身は静聞と梅田洞(中図・BD)探訪。陸行で永新県域に入り、泊。

30日 県令の命により、舟行できず、輿轎も雇えず、陸行(徒歩)で西へ。草墅嶺〔草市坳?(大図・BD)〕を経て、李田〔澧田鎮〕に泊。禾山が見える。

1月

1日 静聞と担夫三人を路江へ向かわせ、自身は武功山へ。

- 陸行。龍門坑〔龍門鎮〕を経て、禾山に登る。鉄径〔鉄井（大図）、鉄鏡（BD）〕を経て、安福県域に入り、陳山に泊。
- 2日 武功山に入り、探訪（～5日）。武功山は袁州府萍郷県にまたがる。台上塘前〔大塘？（大図・BD）〕、平田橋〔梶田？（大図・BD）〕を経て、門家坊〔文家坊（中図・小図・BD）〕に泊。
- 3日 九龍〔九龍山（小図）〕から山頂へ、山頂茅庵に泊。
- 4日 西に下り、九龍寺を経て、盧台〔（盧台（大図・BD））〕に泊。
- 5日 更に武功山を下り、祝高嶺（不詳）を越えて、袁州府萍郷県域に入る。石城洞（小図・BD）に泊。
- 6日 午口〔五口（大小図・BD）〕、銅坑〔同坑（大図・小図・BD）〕を経て、石門山、石門寺に泊。路口出身の劉二玉と会い、意気投合。彼の実家を訪ねる話がまとまる。
- 7日 石門山を下り、北上して、路口・廟背（大図）〔路口のみ（中図・小図・BD）〕の劉二玉の家で痛飲。
- 8日 路口を発ち南下。銅坑、南村、青塘墅〔青塘〕を経て、西塘（不詳）に泊。
- 9日 湯家渡〔湯渡（大図・BD）〕を経て、県境の龍山〔壘山口（大図・小図・BD）、龍山口（中図）〕を経て、再び永新県域に入る。龍田溪〔龍田〕を経て、路口に泊。静聞と合流。
- 10日 轎行。文竹を経て、一旦萍郷県域に入り、橋頭を経て、湖広省長沙府茶陵州域に入る。黄雲山〔皇雲山〕に入り、探訪。山を下り、芳子樹下〔芳市（湖南省大図）〕に泊。

## 2-1. 経由地

- 浙江省衢州府常山県（浙江省衢州地級市常山県）  
 江西省広信府玉山県（江西省上饒地級市玉山県）  
 同 上饒県（同 上饒県）  
 同 鉛山県（同 鉛山県）  
 同 弋陽県（同 弋陽県）  
 同 貴溪県（同 鷹潭地級市貴溪市）  
 同 撫州府安仁県（同 余江県）  
 〈同 広信府貴溪県〉  
 同 撫州府金溪県（同 撫州地級市金溪県）  
 同 建昌府南城県（同 南城県）  
 同 新城県（同 黎川県）  
 同 南豊県（同 南豊県）  
 同 撫州府宜黄県（同 宜黄県）  
 〈同 建昌府南城県〉  
 〈同 撫州府宜黄県〉  
 同 崇仁県（同 崇仁県）  
 同 樂安県（同 樂安県）  
 同 吉安府永豊県（同 吉安地級市永豊県）  
 同 吉水県（同 吉水県）  
 同 廬陵県（同 轄区、吉安県）

- 〈 同 吉水県〉  
 〈 同 廬陵県〉  
 同 泰和県 ( 同 泰和県)  
 〈 同 廬陵県〉  
 同 永新県 ( 同 永新県)  
 同 安福県 ( 同 安福県)  
 同 袁州府萍郷県 ( 同 萍郷地級市廬溪県、蓮華県)  
 〈 同 永新県〉  
 湖広省長沙府茶陵州 (湖南省株州地級市茶陵県)

### 1-3. 探訪先

叫巖：叫巖寺  
 亀峯：三十六峯・一線天  
 貴溪県南の名勝：象山・仙人橋・一線天・徐巖  
 龍虎山：馬祖巖・仙巖・上清宮・龍虎観・真人府・上清街  
 麻姑山：麻姑壇・仙都観・丹霞洞  
 覺海寺・鉄仙巖  
 大杉嶺：感応峯・会仙峯・迷陽洞  
 軍峯山 (軍山)：混玄観  
 宜黄県北の名勝：獅子巖・仙巖  
 宜黄県南の名勝：玉泉山・蝨山・石蝨寺  
 華蓋峯  
 会仙峯 (仙女峯)：  
 吉安府鷺陵県城：白鷺書院、神岡、白燕山、周文襄の故居  
 嵩華山：洞雲  
 青原山：青原寺  
 梅田洞：三洞  
 武功山：香炉峯・白法庵・九龍寺・紫竹林  
 石城洞  
 黄雱山：仙宮嶺、石牛峯、黄雱廟

## 2. 「楚遊日記」の部

卷二下「楚遊日記」

：崇禎丁丑10年 (1637) 1月11日～閏4月7日、徐霞客52歳

### 2-1. 行程

1月

11日 湖広省長沙府茶陵州域の、芳子樹下を出発。

静間には荷物を持たせ、舟行で衡州府治に先行させ、自身は顧僕を伴って、茶陵・攸の山々

と南岳衡山探訪へ。

陸行。西へ、高隴、沙口（小図1）を経て、雲巖山探訪。舟行で西へ下り、茶陵州近くの東江口（BD）で上陸し、泊。

12日 茶陵州城を經由して、東の靈巖八景を探訪。山中の寺に泊。

13日 茶陵州城へ引き返し、そのまま通過。紫山麓の沙江鋪（不詳）を経て、紫霞山・雲陽山に入り、探訪（～17日）。山中泊。

17日 雲陽山を下山し、西北へ、黄石鋪（大図・BD）に泊。

18日 西北へ、珠璣鋪（小図2）から攸県域に入る。攸県城南関に至り、泊。

19日 西南へ、県境の漠田（不詳）を経て、衡州府衡山県域に入る。大江北岸の太平寺嶺（不詳）に泊。南岸は芒洲〔草市鎮？〕。

20日 舟行。洙水を遡上。下埠〔夏浦（大図・小図1・BD）〕を経て、楊子坪（不詳）に泊。

21日 雷家埠〔雷溪？（BD）〕を経て、湘江に入る。湘江を下り、衡山県域に着き、上陸。

陸行。師姑橋を経て、（南岳区に入り）司馬橋をわたって、南岳廟に着く。南岳探訪（～28日）。

28日 南岳を西に下り、馬跡橋〔馬跡鎮〕を経て、衡陽県域に入る。界頭〔界牌？〕、国清亭〔国清寺（BD）〕、界江（大図）を経て、横口〔响嶼郷？〕に泊。

29日 楊梅灘〔楊海橋？（BD）〕を経て、衡州府治の衡陽県域に着。静聞と緑竹庵で合流。衡山古太坪の僧侶融止<sup>(6)</sup>が待っていた。

緑竹庵を起点に、衡陽県域近隣を探訪（～2月9日）。

## 2月

9日 舟行。出発の準備をしたのに、雨が強いので船が出ない。

10日 夜ようやく出発したが、対岸に泊。

11日 出発して南へ。東陽渡、車江、雲集潭<sup>(7)</sup>、新塘站〔新塘埠〕を経て、その少し先に泊。

夜中に盗賊の集団に襲われる。水中に逃げ、丸裸だが無傷で助かった。静聞は刀傷を負う。船は火をかけられ炎上<sup>(8)</sup>。

12日 別の船を借りて、東陽渡を経て衡陽県域に引き返す。門前で船中泊。

13日 友人の金祥甫を頼り、衡陽県域に滞在（～3月4日）。

## 3月

3日 静聞の傷が治らないが、遊行の思い抑えられず。静聞を衡陽に留めて療養させ、自らはこの機会に湖南省南部の九嶷山を探訪することとする。

二度目の南下の舟行。ほとんど進まず、船中泊。

4日 出発、雲集潭に泊。

5日 遭難の場所を過ぎる。沈船なおあり。

桂陽河口（舂陵水が合流）、松北〔松柏〕を経て、瓦洲夾（不詳）に泊。

6日 このあたりは、湘水の北岸と南岸とで県が異なる。南岸の常寧県域の白坊駅〔柏坊鎮〕を経て、永州府祁東県域の粮船埠〔粮市鎮〕に泊。

7日 舟で出発。北岸の祁陽県域の河州駅〔河州鎮〕、南岸の常寧県域の大鋪〔太堡〕を経て、北岸の祁陽県域の帰陽駅〔帰陽鎮〕に泊。

8日 永州府祁陽県域に入りこみ、白水駅〔白水鎮〕を経て、石壩裏〔石壩（小図1・2）〕に泊。体調不良となる。

- 9日 祁陽県城に入り、泊。体調戻らず、下船できず。
- 10日 県域の梧溪探訪。媳婦娘塘（不詳）を経て、滴水崖〔滴水岩〕に泊。
- 11日 零陵県域に入り、黄楊鋪〔黄楊司鎮〕を経て、七里灘（不詳）に泊。
- 12日 冷水灘〔冷水灘区〕を経て、区河（不詳）に泊。
- 13日 湘口関（湘江・瀟江の合流地点）を経て、永州府治の零陵県城に上陸。永州探訪。泊。
- 14日 陸行。零陵北部の芝山探訪。南に戻り、船の用意を顧僕にさせ、朝陽岩探訪。岩の麓で、乗船。舟行。廟下（不詳）に泊。
- 15日 巖背（不詳）で上陸し、船を先行させ、自らは陸行で澹巖探訪へ。探訪後、たまたま船が来たので、乗船し、双牌〔双牌県城〕を通過、横口〔横江口（BD）〕に泊。
- 16日 舟行。麻潭駅〔麻灘（大図・小図1）〕を経て、道州域に入る<sup>(9)</sup>。吳壘鋪（不詳）などを経て、將軍灘（南東部に將軍嶺がある）に泊。
- 17日 青口を経て、道州県城に入る。上陸して泊。
- 18日 陸行。道州西の名勝探訪のため、西へ。達村（小図1・BD）を経て、月巖に泊。
- 19日 月巖を出て、南東へ。武田〔午田？〕を経て、板寮（不詳）に泊。
- 20日 営上（不詳）から江華県域に入る。江華県城を通過し、西の大仏嶺〔梁山頂？〕へ向かう。浪石寺に泊。
- 21日 西へ、大仏嶺を探訪し、浪石寺で昼食。獅子巖洞も探訪し、江華県城に戻って通過し、江渡（不詳）に泊。
- 22日 東北へ、界牌を経て、再び道州域に入る。虎版石（小図1・BD）を経て、彭家村（小図1）に泊。
- 23日 東へ、寧遠県域に入る。路亭（BD）〔路田？（小図1）〕に泊。
- 24日 南下して、太平營〔小図2・BD、太平坪（小図1）〕を経て、九嶷山探訪（～30日）。
- 30日 九嶷山を下山して北上。路亭に泊。

#### 4月

- 1日 路亭を出発。北東へ。下観〔下灌〕、山口圩〔山口村（BD）〕を経て、衡州府藍山県境<sup>(10)</sup>の界頭鋪（大図）に泊。
- 2日 藍山県域を東へ。総管廟（小図2）〔総市（大図・小図1・BD）〕を経て、雷家嶺（大図・小図1・BD）に泊。
- 3日 東へ。楊梅原〔楊梅（大図・BD）〕、田心鋪を経て、臨武県境の朱禾鋪（不詳）で昼食。臨武県域に入り、湖南広東の分水嶺である江山嶺を越える。墊江鋪〔楚江郷？〕に泊。
- 4日 龍洞探訪。墊江鋪に戻り、臨武県城へ。泊。
- 5日 掛傍山を経て、鳳頭巖（別名秀巖、秀龍巖）探訪。臨武県城に戻り、泊。
- 6日 東へ。黄岑山の尾根に位置する鳳集鋪（不詳）を越え、郴州府宜章県域に入る。梅田白沙巡司〔梅田鎮〕に泊。
- 7日 東へ。良巖寺（良巖、不詳）を経て、宜章県城を通過。野石巖の麓に泊。
- 8日 野石巖〔丹霞地貌景観区？〕探訪。宜章県城に戻り、西北へ。黄岑山（騎田嶺）に入る。黄岑山探訪（～9日）。黄岑山は、郴州域にまたがる。高雲寺に泊。
- 9日 郴州側に下り、大竹嶺、良田を経て、万歳橋（大図・小図1）に泊。
- 10日 新橋鋪（不詳）を経て、郴州府治の郴州県城に入る。県城東の蘇仙嶺〔蘇仙嶺風景区〕・白鹿洞探訪。山中の蘇仙観に泊。



- 11日 郴州県城に引き返し、午後乗船。  
舟行。郴口（郴江と東江との合流地点）を経て、永興県城に入る。程口（郴江と程江との合流地点）に泊。
- 12日 永興県城を通過、観音巖（永興八景の一）を経て、衡州府耒陽県城に入る。柳州灘（不詳）に泊。
- 13日 上堡市〔横市鎮・上保街〕に至り、上陸。北岸の直釣巖に上る。午後乗船。耒陽県城に至り、泊。
- 14日 排前〔排一？（大図・BD）〕で船を乗り換え。県境の新城市〔新市〕を経て、再び衡陽県城に入る。相公灘〔相公堡・相市郷〕に泊。
- 15日 前吉渡（乾隆本「前溪渡」、泉溪）で上陸。  
陸行。陡林鋪（不詳）に泊。
- 16日 湘江を渡って、衡陽県城に戻った。静聞と再会、合流。金祥甫の家に泊。  
衡陽県城滞在（～20日）。金策にはしる。
- 20日 舟行。みたび衡陽県城を出発し、南下。東陽渡に泊。
- 21日 新塘站〔新塘埠〕を経て、松柏に至る頃、衡陽の友人劉明宇が見送りに来るという情報が伝えられる。一旦上陸し、香炉山に登り、茅庵に泊。
- 22日 陸行。新塘站到引き返したが、明宇とは行き違い。松柏へ再び進み、ようやく再会。別れを告げて出発。  
以後舟行。白坊駅〔柏坊〕に至り、泊。
- 23日 二艘の船が盗賊に襲われて、死傷者を出しているのを見かける。永洲府祁陽県城の河洲駅〔河洲鎮〕に泊。
- 24日 大鋪〔大堡〕を経て、帰陽駅〔帰陽鎮〕に泊。
- 25日 河背塘〔河埠塘？〕を経て、白水〔白水鎮〕に泊。
- 26日 観音灘〔観音灘鎮〕に泊。
- 27日 祁陽県城に至る。船が混んでいて進まず。やむなく上陸して、祁陽県城探訪（～29日）。
- 29日 祁陽県城を出発。舟行。梧溪石刻を經由、零陵県城に入る。横楊鋪〔横陽司鎮〕に泊。
- 閏4月
- 1日 高栗市〔高溪市〕を経て、冷水湾〔冷水灘区〕に至り、泊。
- 2日 湘江関に泊。
- 3日 湘水に入り、西へ遡上。東安県城に入る。軍家埠（小図1・BD）を経て、台盤子〔台凡市（大図・小図2・BD）〕の少し手前に泊。
- 4日 石溪駅〔石期市鎮〕を経て、白沙洲（小図1・BD）に泊。
- 5日 兵書峽〔兵書嶺〕を経て、羅埠頭〔緑埠頭（大図）、淶埠頭（小図2・BD）〕に泊。
- 6日 終日羅埠頭に停泊。
- 7日 西南へ舟行。広西省桂林府全州域に入り、楊浦駅を経て、廟頭に泊。

## 2-2. 経由地

湖広省長沙府茶陵州（湖南省株州地級市茶陵県）

同 攸県（同 攸県）

同 衡州府衡山県（同 衡陽地級市衡東県、衡山県、南岳区）

同 衡陽縣 ( 同 衡陽縣、轄區、衡南縣)  
 同 常寧縣 ( 同 常寧市)  
     ( 同 祁東縣)  
 同 永州府祁陽縣 ( 同 永州地級市祁陽縣)  
 同 零陵縣 ( 同 轄區、雙牌縣)  
 同 道州 ( 同 道縣)  
 同 江華縣 ( 同 江華瑤族自治縣)  
 〈同 道州〉  
 同 寧遠縣 ( 同 寧遠縣)  
 同 衡州府藍山縣 ( 同 藍山縣)  
 同 臨武縣 ( 同 郴州地級市臨武縣)  
 同 郴州府宜章縣 ( 同 宜章縣)  
 同 郴州 ( 同 轄區)  
 同 永興縣 ( 同 永興縣)  
 同 衡州府耒陽縣 ( 同 衡陽地級市耒陽市)  
 〈同 衡陽縣〉  
 〈同 常寧縣〉  
 〈同 永州府祁陽縣〉  
 〈同 零陵縣〉  
 同 東安縣 ( 同 永州地級市東安縣)  
 廣西省桂林府全州 ( 廣西壯族自治區桂林地級市全州縣)

### 2-3. 探訪先

雲巖山：雲巖寺

靈巖八景：會仙巖、觀音現像他

雲陽山：上清洞、麻葉洞、秦人洞他

南岳衡山：祝融峯、上封寺、福巖寺、方廣寺他

衡陽附近：回雁峯、石鼓山、花葉山、桂花園他

梧溪：石刻

零陵：柳宗元「永州八記」関連

澹巖：洞、和尚嶺

道州西部：華巖、濂溪洞、月巖

大仏嶺：蓮華洞、浪石寺、獅子巖洞

九疑山：舜源峯、舜陵廟、三分石他

龍洞

秀巖

野石巖

黃岑山

蘇仙嶺：乳仙宮、白鹿洞、中觀、飛昇亭、蘇仙觀他

直釣巖

## 祁陽県城：甘泉寺

### 注

- (1) 本稿に先立つものとして、「徐霞客遊記の基礎的研究（一）」（『埼玉大学紀要（教育学部）』63-2、2014）所収の「第二部 徐霞客遊記全行程（一）」において、巻一の名山遊記、及び巻二の浙遊日記における行程を現在の地名と同定した。
- (2) 明成化23年（1487）、皇子祐楨を益王とし、南城県に王府を置いた。大図に益瑞王朱賓墓趾と益恭王朱厚炫墓趾を載せる。
- (3) （1520～1577）。宜黄の人。字は子理、諡は襄敏。嘉靖23年（1544）の進士。福建などで軍事職をつとめ、倭寇殲滅に功績をあげた。明史巻212本伝。
- (4) 張宗璉（1374～1427）は、字は重器、江西吉水の人。永樂2年（1404）の進士。諸官を歴任し、南京大理丞に至ったが、宣徳2年（1427）帝意に逆らい、常州府同治県に左遷される。しかしこの地で善政を敷き、民を軍務につくことから救った。しかし同年、病没した。郡民の白衣冠して哭送するもの数千人に上り、君山に廟を建てて祀った。徐霞客は、ここを訪れた際、祠が瓦礫に埋もれているのを惜しみ、天啓4年（1624）に私財を出して廟を再建した。このことは拙稿「徐霞客遊記訳注稿 資料編（其一）— 陳函輝「霞客先生墓志銘」—」（『埼玉大学教育学部紀要』63-2）でも触れた。なお、この折に張氏から、張宗璉直筆で同家で200年以上も珍藏されていた「南程続記」なる孤本を譲られたようであるが、強盗に襲われた際（「楚遊日記」2月11日条）、失われてしまった（後掲注8）。
- (5) 底本は「西園」。朱全訳は、十二月一日条に「西園」とし、「原作“西団”、抛十二月十三日記改」と注する。黄新訳は、同「西団」とし、「抛下十二月十三日日記、当為『西園』之誤」と注する。二つの訳注に拠れば、十二月一日条は、底本はもともと「西団」としていたのではないか。それを校勘記を付さずに「西園」と改めてしまったのでは無かろうか。なお、現在の地名は、大中小図・BDとも「西団」である。
- (6) 彼は、徐霞客が古太坪を訪れたとき引き留められたが振り切った相手であった。これから桂林の七星巖を訪ねようとしてたのが、霞客が来るのを聞き、待っていたのだ。なお、徐霞客自身の七星巖探訪は、「粵西遊日記 一」五月二日条。
- (7) 徐霞客はこの順で記すが、現代の地図では雲集鎮は新塘埠よりも上流、すなわち「先」にあたる。
- (8) 徐霞客の旅游での最大の災難。11日、停泊中に、艾行可・石瑤庭と友人になる。その夜、川岸から泣き声が聞こえ、霞客は「琵琶行」にかこつけた詩作などをしていた。静聞は気にして、小便のために上陸した機会に問うたところ、少年で折檻されたので逃げてきたのだということだった。そこで静聞が諭して家に帰るよう勧め、船に戻った。するとそれを図ったように一群の盗賊達が船に乗り込んできて、人々を斬り殺し、財物を奪い始めたのであった。どうやら少年の泣き声は、船の様子を伺うための詐術であつたらしい。船人父子は殺害され、多数の犠牲者が出た。霞客は川に飛び込んで助かり、顧僕と石瑤庭は身ぐるみ剥がれがたが他船に逃げ、生き延びた。しかし顧僕は負傷した。この日の段階で、静聞と艾行可は行方不明であった。船は焼かれ、流されていった。霞客は、負傷をまぬがれたことよりも、混乱の中で、張宗璉の著「南程續記」一帙が失われたことを恨んでいる。「奇書好み」の極みと言えよう。翌12日、霞客は顧僕らとともに、乗っていた船を探したところ、下流で焼け残っていた。静聞は船中で生存しており、再会を果たす。静聞は、命をかけて、霞客の書籍や書簡の一部、他の人の荷物を守ったが、傷を負った。にもかかわらず、石瑤庭は、静聞が結果的に賊を引き込んだとして、静聞をののしるのであった。船を借りて、東陽渡を経て衡陽県城に引き返し、門前で船中泊。艾行可は死体で発見されていた。周囲のものたちは旅を中断して帰省するよう勧めたが、徐霞客は聞き入れず、旅を続けた。
- (9) 徐霞客は麻灘までが零陵県で、その南から道州だというのが、実際には、16日に通った將軍灘までが零陵県で、青口からが道州である。徐霞客の地名と所属府県の記述はほとんど正確だが、ここは誤りであろう。
- (10) 徐霞客は、界頭鋪は寧遠県と藍山県との境に位置するというが、現在の地図では藍山県に5kmほど

入ったところになる。  
以上

謝辞

本研究は、JSPS 科研費24520037の助成を受けたものです。

(2014年9月29日提出)

(2014年10月10日受理)